

東小CS通信

名寄市立名寄東小学校
地域連携部CS担当
文責：中谷 健太

令和元年9月9日（月）発行

第2回 学校運営協議会

8月31日（土）、地域公開参観日を実施しました。
今回は、昨年度から新たに教科化となった『特別の教科
道徳』の授業を中心に参観していただきました。

第2回学校運営協議会も同日に開催し、運営協議会
委員の方々にも道徳科の授業を参観していただきました。



協議内容① 学校評価（中間）

2学期の指導の改善のために、1学期の教育活動の振り返りを教職員で行いました。その結果をお知らせするとともに、結果から見えた課題や、今後の取組の重点について共有しました。

また、7月に取り組んだ「生活リズムチェックシート」の集計結果についても交流しました。本校や北海道教育委員会で示している目安に比べ、「**家庭で学習に取り組む時間**」・「**読書時間**」が短くなっていることについて、今後改善を図っていくことを確認しました。

協議内容② 道徳科の学習について

道徳科の授業を参観していただくに先がけ、本校の道徳教育推進教師より、「特別の教科 道徳」について説明をさせていただきました。



道徳教育の充実が求められる背景や、道徳科の指導などについてお知らせしました。

本校では『**児童の実態等を考慮しながら、多面的・多角的、自己の生き方について考えを深める場面を設定すること**』を意識して道徳科の授業づくりを行っています。子どもたちが多面的・多角的に考える姿や、自己の生き方についての考えを深める場面に着目しながら、道徳科の授業参観をしていただきました。

協議内容③ 子どもの様子についての感想交流

道徳科の授業参観後、子どもたちの様子についての感想交流を行いました。道徳科をテーマとした交流の中にも、**学校・家庭・地域の三者の関わりや役割**につながる話題が上がりました。

子どもたちの様子について

- 全員が手を挙げたり、ノートに書いたりしている様子に感心した。
- 子どもたちが、紙に自分の考えを書き始め、**自分の思いを表し、それを共有する**という時間は、とても貴重。
- 家庭では起こりえない事例について、**一人一人の考えが授業で交流される**のは、とても貴重な時間だと感じた。

「道徳」について

- 板書に④と書いてあり、14回も学習しているのだと思った。昔よりも、**人間形成の時間が多く取られている**と感じた。
- 道徳に関する教育は、**学校だけではなく、家庭の役割も大きい**と思う。
- 教室に入った時に、**「緑のおじさんだ！」**と声を掛けられ、大変うれしく思った。そういう挨拶や関わりこそが道徳だと感じた。

授業の進め方について

- 授業の展開がはやく、担任のプレゼンテーション能力や板書、**意見のまとめ方がすばらしかった**。
- イラストを用意して授業を行い、**興味をもてるように工夫**されていた。
- 子どもたちの発言を多く求め、**参加型の授業で、考える力が養われる授業**となっていた。
- 補助の先生が必要に応じて声掛けを行っていて、**集中して授業に取り組む助け**になっていた。
- 登場人物の性格について、「明るい？ 暗い？」と問う場面があったが、**どちらかではなく、グラデーションでもよかった**のではないかと感じた。

授業のまとめについて

- 授業のまとめはどのようになるのか。基本的に個々の考えになると思うが、**結末がふんわり**してしまいう。どこまで指導するのが難しいと感じた。
- **最後は子どもが決めること**だと思う。

協議内容④ 「東小っ子 子育てプラン」策定について

8月31日の学級懇談会で、1年生と6年生の子育てワークショップを実施しました。これで、すべての学級でワークショップを実施することができました。今後は、**家庭や地域の声を集約し、『目指す子どもの姿』を定めます**。そして、『目指す子どもの姿』を実現するために、**三者がどのような役割を担うことができるか**、具体的な形を子育てプランにまとめていきます。

